

共生社会の 実現に向けて



愛知県立みあい特別支援学校
校長 志賀 則彦 氏

教育随想



令和元年 8 月 1 日

8 月号

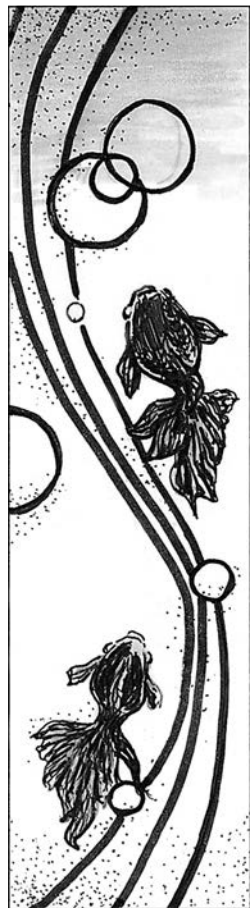
発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

- 教育随想…………… 1
愛知県立みあい特別支援学校
校長 志賀 則彦 氏
- この人に聞く…………… 2
節句人形師 粟生 真一 氏
- 羅針盤…………… 2
六ツ美北部小学校
校長 杉原恵美子
- ふれあい…………… 3
福岡小学校
教諭 村松 雅子
- 特集…………… 4
学校に息づく「書道作品」
～思いを受け継ぐ岡崎の子どもたち～
- お知らせ…………… 6
- フォト・ヒストリー… 8
旧校舎とのお別れ式
(昭和51年)
- この本を…………… 8

私がかつて勤務した特別支援学校の事務室の片隅に、保護者から送られた一枚の色紙がありました。そこには「母なれば 百年生きて幼子おさなこの添え木となりて 共に朽ちたし」とありました。常に我が子に寄り添い、我が子を守り、死ぬときは一緒に死にたいと願う母親の思いです。障害者に対する世の理解の不足と社会保障の脆弱性ぜいじゆせいがこの句の背景にあるように感じました。

それから十数年の年月が流れ、平成二十六年一月、我が国において「障害者権利条約」が批准され、平成二十八年四月には通称「障害者差別解消法」が施行されました。学校教育法も改正され、就学手続きの見直しにより、保護者・本人の意向を最大限尊重した「合意形成」に基づく就学先の決定がなされるようにな



りました。

この流れの中、愛知県内の小中学校では、平成二十九年年度から平成三十一年度（令和元年度）にかけて、特別支援学級が三九七学級、通級指導教室が三十四学級増えました。一人でも対象者がいれば、特別支援学級を設置するという流れです。地域の小中学校においては、この加速度的な学級増に対応するため、特別支援教育担当者の育成が急務であると思います。みあい特別支援学校は毎年、岡崎市をはじめ西三河地区小中学校の特別支援学級担当

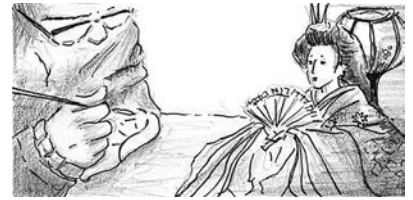
初心者研修の会場校として、特別支援教育のセンター的役割を担っています。

共生社会の実現に向けては、課題が山積しています。私たち特別支援学校の教員は、少しでも小中学校の先生方のお役に立てるよう、専門性を磨く努力をしています。そして、共に手を携え、共生社会の実現に向けて一歩でも前進できれば幸いです。

特別支援教育に関する相談があれば、気軽に声をかけてください。

(しが のりひこ)

この人に聞く



世代を超えて、人の心をつなぐ

節句人形師
栗生 真一 氏

日本には、節句人形を飾り、子供の健やかな成長を祈る年中行事がある。工場でプラスチック製の節句人形が大量生産される昨今、栗生真一氏は、今も職人の技を受け継ぎ、一つ一つ手作りして節句人形を作っている。主に雛人形を作っているという栗生真一氏のお話を伺った。

「栗生人形の特徴は、本物の袋帯地衣装であることです。部品を一つ一つ丁寧に作り、組み合わせているので時間がかかりますが、大量生産では表現することができない良さがあると思っています。」

真一氏は、節句人形師の父、正樹氏の背中を見て育った。「父の節句人形を買いに来たお客様

が喜んで帰っていく姿。また、以前に購入されたお客様がもう一度来店して当時の思い出を語られる姿。そんなお客様の姿を見て、父の仕事を誇らしく思いました。だから、自分の将来を決めるときに、人形師という選択肢が自然と芽生えました。」

お客様に笑顔と喜びを届ける節句人形師の仕事に魅力を感じ、父の後を継ぎ、二代目となった。真一氏は、時代の変化とともに、求められる雛人形の形が変わっていると。以前は七段飾りのような大きな雛人形飾りが主流だったが、今は住環境も変わり、大きな雛人形飾りはほとんど求められなくなってきたという。

「お雛様の求められ方が変わっても、長く飾ってもらえるものを作りたいという思いは変わりません。顔を今の時代に合った可愛いものにした、手のひらサイズの、飾りやすく、親しみやすいものにしたりと、職人たちで日々試行錯誤しながら作っています。」

さらに、節句人形師としての思いを、こう語ってくれた。

「親戚同士の付き合いが希薄になっていることや、親が忙しくてゆとりと子供と話せなくなっていることで、何か大切なものを失っているのではないかと感じています。雛人形を準備する時間が、家族団らんのひとときになることもあります。そんな楽しい家族との思い出が、寂しいときの心の拠り所になることもあるのではないのでしょうか。雛人形を飾

る日本の文化が、世代をつなぐ役割を果たしてくれるとも思っています。」

自分の作る雛人形が、家族の絆を深くする役割を果たしてほしいとの思いが、真つすぐに伝わってくる。「雛人形をお届けするときは、どんな思いを込めながら作っているのかを、必ずお客様に伝えていきます。それが、人形師としての私の使命だと思っていますし、やりがいです。」

真一氏は、お客様のたくさん笑顔と接し、節句を祝う文化を伝える大切さを強く感じている。そして、時代の変化に左右されない、家族の愛情を象徴する雛人形を制作する仕事に誇りをもっている。

「私の雛人形を買ってくれた小さな子供が、歳を重ね、新たな家族をもち、ここに戻ってきてくれる日を今から楽しみにしています。」

真一氏の情熱と愛情は、世代を超えて人の心をつないでいくだろう。



氏名 あおう しんいち
生年月日 昭和四十七年二月二十三日
住 所 岡崎市市場町

伝え、つながり、輝く

六ツ美北部小学校
校長 杉原恵美子

「アートマイル壁画プロジェクト」に参加して五年目となる。このプロジェクトは、インターネットを活用して海外の子供たちと学び合い、世界に発信したいメッセージを、一枚の壁画に共同制作するという国際協働学習である。完成した壁画は、東京五輪で飾られる。

プロジェクトへ参加した目的は、表現することが苦手で自信がもてない子供たちを応援したいから。活動の原動力は、「東京五輪に壁画が飾られる喜び」である。

昨年末、アートマイル事務局の理事長から、「東京2020大会に参加する二百余国の中に、このプロジェクトで交流不可能な国がある。しかし、すべての参加国を壁画で応援したいので、交流不可能な国を応援する壁画は、日本の学校だけで単





自信をもって表現する

福岡小学校

教諭 村松 雅子

四月。A男は四年生に進級した。いつもにこにこ笑顔を絶やさず、周りの友達に優しいA男であったが、自分の思いを言葉で表現することに苦手意識をもっていた。また、苦手なことを前にすると、体の調子を崩すことがしばしばあった。A男自身の言葉で思いを表現させたい、自信をもたせたい、そんな強い願いをもった。

二学期。敬老会で、学年の音楽演奏がある。この機会を利用し、やればできるという自信をもたせたいと、太鼓の演奏をA男に任せることにした。A男が音楽部に入り、打楽器のパートになったと聞いていたからだ。A男は、毎日音楽室で練習に励んだ。発表当日、太鼓の前の席に

座って見守るお家の方の前で、少し照れてはいたが、最後まで堂々と演奏することができた。

部活動に楽しく参加できたこともあり、朝や帰りの挨拶も徐々に元気になった。「A男の元気な挨拶を聞くと、先生も元気になるよ」と伝えると、毎日、下校前に教室の出口でくると振り向き、「さようなら」とひと際大きな声で挨拶して部活へ向かうようになった。

三学期に入り、A男が思いを言葉にできるようにと考え、国語科で連詩作りに取り組んだ。まず、言葉からイメージを広げる練習として、一行詩を紹介して、その題名を考えるクイズや、「氷」という題で一行詩を作る活動を行った。クラスの中でいろいろな発想が出たことや、一行でよいという安心感からか、普段なかなか書き始めないA男が、すぐに鉛筆を動かした。机間指導のときにも笑顔でノートを見せてきたので、「おもしろいね」と声を掛けると、進んで発表することができた。題名から発想を広げ、短い言葉で表現することを楽しんでいる様子から、連詩作りは、A男が思いを伝える楽しさを味わえるきっかけになるのではないかと考えた。

いよいよ連詩作りである。あらかじめ「月」「虫」「季節」「四年生」

という四つの題を提示し、グループごとに題名から発想を広げるマップングを行った。次時、「虫」の第一連を担当したA男は、真剣に「虫」のマップングを見ていた。そして、「夏にみんな／たのしくうれしく／いきをあわせて／ミーンミーン」と書いた。

「セミと書いていなくても、ミーンミーンでセミだと分かっているね。」と声を掛けると、にっこりとうなずき、その後の三つの詩も、グループの友達が書いた前の連に続けて、すぐに書くことができた。

できあがった四つの詩をグループの友達と読み合った。そこには、自信をもって、自分の言葉で思いを表現するA男の姿があった。



「独制作できる」と聞いた。

東京五輪まであと一年。四月当初、学年主任を集めて話をした。

「アートマイルの壁画単独制作に、全クラスで取り組んで、子供たちの夢を膨らませたい。壁画は、五輪で飾られる前に、おかざきっ子展に展示したらどうかと思う……。」

私の中の小さな迷いが伝わったのか、校長室は一瞬静まり返った。しかし、すぐに主任の一人が言った。「こんな機会は滅多にありません。やりましょう。」

この言葉がうれしかった。子供と先生を全力で応援する覚悟が決まった。

未来を生き抜く子供たちには、他者に伝える力、他者をつながる力、そして、自分自身を輝かせる力が必要だ。それらを育むことが、教師の使命であろう。さらに言えば、それらの力は、教師自身こそが磨くべきものである。そうして磨いた教師の人間力が、子供たちを介して、後世に残っていくはずだ。

アートマイル事務局に全校で壁画プロジェクトに取り組むと決めたことを伝えると、すぐにメールが届いた。

「みんな感動しております。私たちも応援しています。」

子供たちも教師も、自分を輝かせようと、今、一步を踏み出した。

学校に息づく「書道作品」 ～思いを受け継ぐ岡崎の子供たち～



▲「学而不厭」（東海中）湯川秀樹（物理学者）

新しい時代、令和が始まった。時は移っても、学び舎に集う子供たちの笑顔は変わらない。そんな子供たちを見守り続ける、先人の言葉を記した書がある。ある書は体育館の壁に掲げられ、汗を流す子供たちの心を鼓舞し、ある書は校庭に石碑として建ち、毎朝子供たちを元気づけている。

郷土にゆかりのある書家や偉人、著名な作家に揮毫していた。いた書を、子供の目に触れさせたり、教育活動に生かしたりしている学校もある。

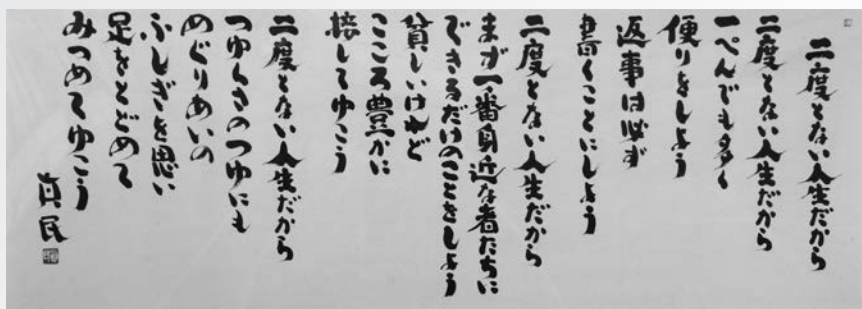
東海中学校には「学而不厭」と墨書された湯川秀樹博士の額が掲げられている。これは、論語の一節であり、湯川博士が座右の銘にしていた、学び続けることの大切さを意味する言葉である。

矢作南小学校では、本多光太郎博士の「つとめてやむな」を校訓とし、努力を続ける強い心を育んでいる。また、本多博士の命日を「本多光太郎の日」とし、彼の業績や生き方を伝えている。

矢作東小学校では、同校出身の考古学者、石田茂作氏の言葉、「七凹八凸」を紹介し、くじけない心を育んでいる。

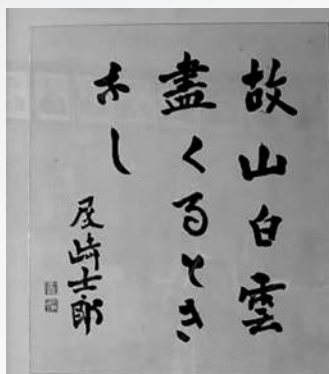
根石小学校では、木村資生博士の言葉を、毎年、色紙にして卒業生に贈っている。

学校に残されている書道作品や、その言葉に目を向け、その思いを伝えていきたい。



◀「二度とない人生だから」（三島小）坂村真民（詩人）

坂村真民（1909～2006年）仏教詩人「すべては光る」など氏の作品にはあたたかいメッセージが込められている。

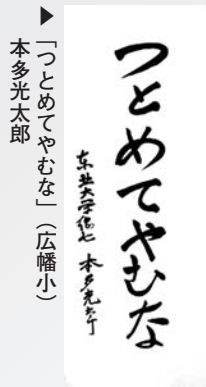


心に残る 文人の言葉

尾崎士郎（1898～1964年）作家
新聞連載小説「人生劇場」が大ベストセラーとなる。西尾市出身。愛知県立第二中学校（現・愛知県立岡崎高等学校）卒。

◀「故山白雲盡くるときなし」（美川中）尾崎士郎（作家）

郷土の偉人に学ぶ



▲ 本多光太郎博士の業績、生き方を学ぶ「本多光太郎の日」(矢作南小)

本多光太郎(1870~1954年)物理学者、金属工学者
K S 鋼、新K S 鋼の発明者。「鉄の神様」「鉄鋼の父」などとも呼ばれ、鉄鋼の世界的権威者として知られる。岡崎市名誉市民。矢作南小出身。

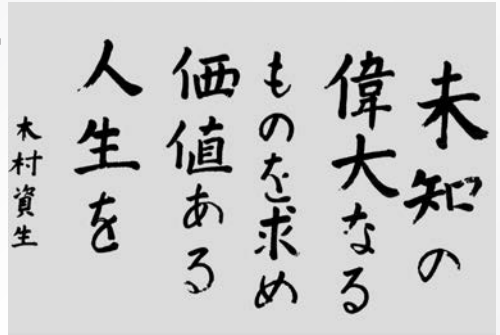


▲「欣浄」(大樹寺小) 中村康雅(大樹寺第64世貫主)



▲ 大樹寺で学ぶ家康学習(大樹寺小)

「未知の偉大なるものを求め
価値ある人生を」(根石小)
木村資生



木村資生(1924~1994年)生物学者
遺伝子レベルの進化は自然淘汰ではなく、「運のいいものが生き残る」という「分子進化の中立説」を立て、分子進化の創始者と称えられる。文化勲章受章。岡崎市名誉市民。根石小出身。

「七四八凸」(矢作東小) 石田茂作



▲ 石田茂作氏について学ぶ(矢作東小)

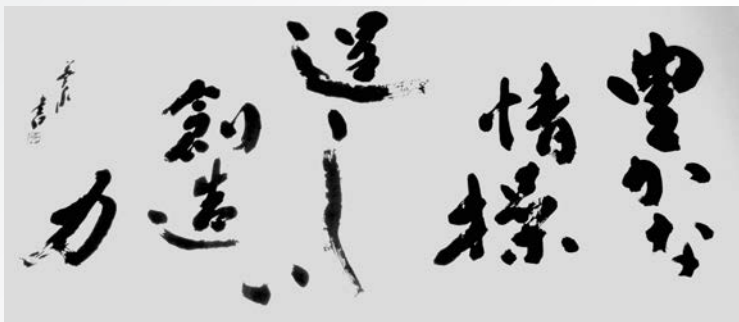
石田茂作(1894~1977年)仏教考古学者
仏教遺物や仏教遺跡を対象とした仏教考古学を提唱。法隆寺再建説を実証した。岡崎市名誉市民。矢作東小出身。



▲「虎」「龍」(河合中) 浅田蓬村(書家)



▲「誇」(山中小)
青山浩之(横浜国立大学教授)
「歴史の深い山中。温かい人たちと自然に囲まれた故郷。ここに生まれたことをこれからも誇りに思い続けます」という言葉が添えられている。



▲「豊かな情操 逞しい創造力」(甲山中) 神谷葵水(書家)

岡崎ゆかりの書家



▲「翔南中校訓」(翔南中) 小嶋和晃(書家)



▲「帰夢」(額田中) 鈴木紫龍(書家)



●総合学習センター改修工事に伴う、施設利用の制限

○大ホール
九月以降利用不可

○駐車場

第4、第5駐車場利用不可
第1、第2、第3駐車場のみ利用可

●教育図書室の活用

教育研究所内にある教育図書室には、約六千七百冊の教育図書の他に、学習指導案、学芸会脚本、運動会DVDが収蔵されている。積極的に活用し、教育活動に生かしたい。

○休館日

日曜日・月曜日・祝日
(月曜日が休日の場合は、火曜日も休館日)

○開館時間

午前九時～午後七時まで
(土曜日は午後五時まで)

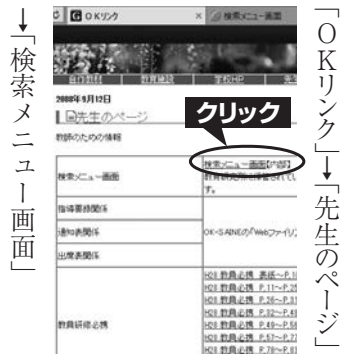


○図書の貸出し方法

①初回のみ受付にて個人登録
②一回に借りられるのは五冊まで
③二週間以内に返却

○学習指導案・学芸会脚本・蔵書の検索方法

【職員室のパソコンから】
「OKリンク」↓「先生のページ」



【教育図書室で検索・印刷】

①教育図書室のパソコンで検索し、閲覧する。
②希望する資料の「分類番号」を伝え、印刷してもらおう。
※紙文書で収蔵されている学習指導案は、複写できる。

●「プレクラス」希望「だけ」

明日に輝け

室長 荒井 留美

「校長先生は、校長という名前の先生だと思った。」
これは先生の名前で盛り上がったときの生徒たちの言葉である。

日本語初期指導教室「希望」は、外国から日本に来て間もない中学生で、平仮名、片仮名の読み書きがままならず、学校での日々の生活に困難をきたす生徒が対象である。現在は、ブラジル、フィリピン、

中国、そして日本の四か国の生徒十六人が、九つの中学校から通ってきている。生徒たちは、月曜日から木曜日までは「希望」に、金曜日は在籍校に登校し、学習している。

ここでの学習期間は約三か月で、十二週間のプログラムを組んでいる。終了時には、在籍校の友達と簡単なコミュニケーションが取れ、学校での生活や学習の規律、給食や清掃の方法などを理解し、小学校二年生程度の漢字の読み書きができることを目指している。



▲ 生徒同士で挨拶の練習 (「希望」)

学習を進めていくと、どの生徒にも、表情が緩み、個性が輝き出す瞬間がある。それに出会えるときが、スタッフの至福のときである。

●表彰

◆NHK杯全国中学校放送コンテスト愛知県大会

○テレビ番組部門

優秀賞 (全国大会出場)

入選 北中学校

入選 新香山中学校

○ラジオ番組部門

入選 北中学校

○アナウンス部門男子

入選 北中 堤 昂

○アナウンス部門女子

優秀賞 (全国大会出場)

六ツ美北中 稲垣 愛

○朗読部門女子

優良賞 (全国大会出場)

竜南中 稲垣玲花



▲ 学習の成果の発表 (「希望」)



▲ 昨年度の様子（保健体育）

今年度も、夏季休業中に授業力・教師力アップセミナーを開催する。

「基礎編」では、七月二十九日、三十日に、下の表のように十八の講座を設けている。「応用編」は、「岡崎市免許状更新講習」の選択講習を兼ねた内容で行う。

今年度は、八月二日、六日、七日の三日間にわたり、二十八の講座を設定している。

本セミナーを通して、新たな知識や技能を身につけ、教師としての専門性を高めてほしい。

● 授業力・教師力アップセミナー

◆ 令和元年度授業力・教師力アップセミナー【応用編】

【8月2日(金)】

| 講習名 | 会場 | 講師 |
|------------|-------------------|-------|
| 小学校国語科教育 | 総合学習センター2F 教育研究室2 | 大西 裕子 |
| 中学校社会科教育 | 総合学習センター2F 教育研究室3 | 中西 勉 |
| 小学校算数科教育 | 総合学習センター2F 教育研究室1 | 北村 文啓 |
| 中学校理科教育 | 総合学習センター3F 教材開発室2 | 山元 嘉与 |
| 小学校音楽科教育 | 美川中学校 音楽室・図書室 | 寺島 真澄 |
| 小学校図画工作科教育 | 常磐中学校 美術室 | 高橋 誠 |
| 小学校体育科教育 | 竜南中学校 体育館・図書室 | 浅井 真人 |
| 中学校技術科教育 | 城北中学校 金工室・パソコン室 | 夏目 弘之 |
| 中学校英語科教育 | 総合学習センター3F 教材開発室1 | 石川 敏幸 |
| 健康教育 | 総合学習センター2F 小ホール | 柴田 和美 |

【8月6日(火)】

| 講習名 | 会場 | 講師 |
|------------|-------------------|-------|
| 中学校国語科教育 | 総合学習センター2F 教育研究室1 | 丹羽 郁人 |
| 小学校社会科教育 | 総合学習センター3F 教材開発室1 | 尾崎 智佳 |
| 中学校数学科教育 | 総合学習センター2F 教育研究室3 | 佐橋 康仁 |
| 小学校理科教育 | 総合学習センター3F 教材開発室2 | 荻須 文裕 |
| 中学校音楽科教育 | 竜海中学校 音楽室・図書室 | 細井 鶴貴 |
| 中学校美術科教育 | 北野小学校 パソコン室・図工室 | 長谷川勝一 |
| 中学校保健体育科教育 | 六ツ美中学校 体育館・1年教室 | 清水佐知子 |
| 小・中学校家庭科教育 | 連尺小学校 家庭科室・図書室 | 小田喜代美 |
| 小学校外国語活動 | 総合学習センター2F 教育研究室2 | 都筑 香理 |
| 命の教育 | 総合学習センター2F 教育研究室4 | 蒲野 由紀 |
| 幼児教育 | 総合学習センター2F 小ホール | 鈴木 晴美 |

【8月7日(水)】 選択講習Ⅲ

| 講習名 | 会場 | 講師 |
|--------------|-------------------|-------|
| 道徳教育 | 総合学習センター2F 教育研究室2 | 坂元 干城 |
| 特別活動・学級経営 | 総合学習センター2F 教育研究室3 | 神谷 明良 |
| 生活科・総合的な学習 | 総合学習センター2F 教育研究室1 | 船越 学 |
| 情報教育 | 山中小学校 パソコン室 | 川本 祐二 |
| 発達障がい児の理解と支援 | 総合学習センター2F 小ホール | 河合由起子 |
| 生徒指導 | 総合学習センター3F 教材開発室2 | 中垣 明道 |
| 保健 | 総合学習センター3F 教材開発室1 | 山本 照司 |

◆ 令和元年度授業力・教師力アップセミナー【基礎編】

| 月日 | 教科・領域 | 場所 | 開講式 閉講式 |
|---------|--------------------|--------------------------|---------------|
| 7/29(月) | 国語・書写 | 岡崎市民会館 (リハーサル室1号室) | 9:00 12:10 |
| 7/30(火) | 社会 | 岡崎市消防本部・本署 | 9:00 12:00 |
| 7/29(月) | 算数・数学 | 岡崎市民会館 (集会室 大会議室) | 9:15 11:40 |
| 7/30(火) | 理科 | 小豆坂小学校 | 9:00 12:00 |
| 7/29(月) | 生活 | 総合学習センター2F (教育研究室2) | 9:15 11:50 |
| 7/30(火) | 総合的な学習の時間 | 総合学習センター3F (教材開発室1・2) | 9:10 12:00 |
| 7/29(月) | 音楽 | 竜海中学校 (音楽室) | 9:10 11:50 |
| 7/29(月) | 図工・美術 | 北野小学校 | 9:30 12:00 |
| 7/30(火) | 保健体育 | 井田小学校 (体育館) | 9:00 12:00 |
| 7/29(月) | 技術・家庭科 (技術分野) | 城北中学校 (パソコン室) | 9:30 11:50 |
| 7/30(火) | 家庭科 | 連尺小学校 (家庭科室) | 8:50 11:45 |
| 7/30(火) | 外国語活動・英語 | 総合学習センター2F (教育研究室2) | 9:10 16:10 |
| 7/30(火) | 道徳 | 額田センター こもれび館 (集会室A・B) | 9:15 11:50 |
| 7/30(火) | 特別支援教育 | 愛知県立みあい特別支援学校 | 9:15 15:00 |
| 7/30(火) | 学習情報 | 羽根小学校 | 9:00 11:50 |
| 7/30(火) | 学校図書館 | 岡崎市立南中学校 (図書室) | 9:30 11:30 |
| 7/30(火) | 学校保健 | 竜美丘会館 (301号室) | 9:40 11:50 |
| 7/29(月) | 生徒指導 (問題行動・不登校) | 愛知学園 | 8:45 13:15 |



▲ 昨年度の様子（音楽）

・カ
ツ
ト
矢作北中 中根 勅子

旧校舎とのお別れ式 (昭和51年)

写真提供：常磐小学校

昭和五十年代、市内では新設校開校や校舎の新築、増築が相次いで行われた。常磐小学校も昭和五十一年に、木造建ての校舎から、一キロほど離れた現在の校地・校舎へ移転した。写真は旧校舎とのお別れ式の様子を写したものである。

移転の日、校長と校旗を持った児童を先頭に、全児童が自分の椅子を持って、新校舎へ引越しをした。この日は、大勢の地域の方も、学校の荷物を運び、新しい学校づくりに協力したそうだ。

校舎は、そこで学んだ思い出と密接につながっている。建物がなくなつたとしても、「学び舎」は、思い出と共に、心の中につまでも残るに違いない。



鳥が飛び立つ瞬間を写真に収めるために、カメラマンは様々な情報を集め、万全の準備を整える。

よい結果を得るためには、現状を変える行動が必要である。笑顔あふれる二期のために、夏休みの時間を利用して、自分を高める研鑽を重ねていきたい。

と ホ ツ

葉目



2学期も学校大好き(北野小)

美しい言葉は、美しい心をつくる。

日々を大切に暮らすため、力をくれる言葉を心に留めたい。

鳥が飛び立つ瞬間を写真に収めるために、カメラマンは様々な情報を集め、万全の準備を整える。

よい結果を得るためには、現状を変える行動が必要である。笑顔あふれる二期のために、夏休みの時間を利用して、自分を高める研鑽を重ねていきたい。

疲れた旅人たちを癒してきた藤川宿。

当時の面影を残す街並みの中に、ひとときわ趣のある建物がある。そこには、家族の笑顔を思い描きながら、心を込めて雛人形をつくる職人がいる。

幼い頃、お雛様を囲んだ温かい思い出が蘇る。



***人を創って夢を実現する** 古澤 武雄
中経マイウエイ新書 ¥800

心に残った一文

人間は最終的に、他人との関わり合いで動いている

岡崎市北部の花園工業団地にある東海光学。その会長であり、岡崎市出身の古澤氏が、自身の半生について綴っている。

「脳まで心地よくなる画期的な脳科学メガネレンズ」を作り上げた古澤氏が、最も必要なのは「機動的・組織的に対応できる人材の厚みであり、人づくりである」と述べている。人づくりの根幹である学校教育の重要性を再認識する。

新しい事業を進めるには、明確な動機と決断力が必要と著者は語る。失敗を経験しながらも、たくさんの人との関わりの中で、常に信念に基づいて行動する姿に多くを学ぶ。

***発達障害グレーゾーン** 姫野 桂
扶桑社新書 ¥820

***12歳までの読み聞かせが子どもの「地頭」をつくる!** ランディー由紀子
WAVE出版 ¥1,400

***具体と抽象** 細谷 功
d Z E R O ¥1,800

生平小 長坂 博子